

[調査研究]

## 東北大学附属図書館における電子書籍(和書)の利用動向

小林 真理絵

### 1. はじめに

COVID-19下において来館せずとも利用できる電子書籍(本稿では以後、業務上の通称である電子ブックと称する)が注目された。東北大学附属図書館(以下、当館)でも2020年度以降電子ブックの収集強化を図ってきた。2023年5月の5類移行により、COVID-19感染症対応はいったん終了したが、IT環境を利用した学修は継続しており、電子ブックの整備は今後も求められていると考えている。

当館では2009年度のEBSCO eBook Collection (NetLibrary)を皮切りに電子ブック(和書)の導入を開始したが、全体的な分析を行ってほかなかった。そこで、COVID-19対応が一応の終了を見た今年度、電子ブックの利用について分析を行い、電子ブックの利用状態について検証する。

分析対象は、利用がある程度多く、統計の取得が容易な和書のプラットフォームであるKinoDen(紀伊國屋書店)およびMaruzen ebook Library(以下MeL, 丸善雄松堂)とする。分析に用いたデータは、各プラットフォームが提供するアクセス統計、および各書店から取得したアクセス・ダウンロードログ<sup>1</sup>の2点である。Net Libraryは2016年度以後の購入がほとんどないため分析対象から除外した。

### 2. アクセス数に見る利用動向

本章では全体的なアクセス数の推移やダウンロード利用数、閲覧時間数などにより利用動向を見ていく。

#### 2.1 2018年度から今年度(2023年)のアクセス状況

KinoDenの導入開始が2018年12月であるため、分析は2018年度以降を対象とする。月ごとに区切れなかったため、2018年度のデータはKinoDenが12月から、MeLは4

月からとなっている。2023年度は本稿の執筆を開始した9月時点で取得した2023年8月31日までを対象とした。なお、各プラットフォームで取得できるデータは以下の通りである。

- ・KinoDen:1タイトルごとのアクセス数+試し読み数<sup>2</sup>。対象期間にアクセスのなかったタイトルは出力されない。
- ・MeL:1タイトルごとのアクセス数

#### (1)KinoDen

既存のプラットフォームのものを優先的に購入していたため、KinoDenで利用できる点数自体はあまり多くはない。しかし、購入点数の増加とともに、アクセス数および1点当たりのアクセス数も増加しており、順調に利用が伸びている。また、1点当たりのアクセス数が、COVID-19最中よりも通常状態に戻った2023年度の方が多(表1)。

なお、全期間を通して試し読みが全体のアクセス数の1/3~1/2を占めており、アクセス数を押し上げている<sup>3</sup>。とはいえ、2023年度は試し読みを除いても1点当たりアクセス数が10.3件となり、アクセス総数もすでに2022年度を超えている。この点からも電子ブック利用の定着の傾向は進んでいると考えられる。

さらに、月ごとの傾向をみたところ、2022年度、2023年度とも年度前半の授業期間でのアクセス数が多いことが分かった(図1)。特に2023年度は、授業期間では1日100件程度、多い日は300件を超える日も見られたが、夏季休暇以後は1日25件を下回り授業期間のアクセスの多さが際立っていた。

1 ログには利用日時、書名、IPアドレス、利用時間、ダウンロードページ数等が記載されており、個人が特定できないようになっている。

2 試し読みとは、購入していないタイトルや同時アクセス数を超えたタイトルを読めるもの。出版社からの許諾があるものが対象

で、図書により閲覧可能範囲は異なり、目次のみのものも多くある。

3 非購入図書、およびアクセス数上限により通常の閲覧ができないものが含まれ、後者が多い。

表1 KinoDenの年度別アクセス数

年度	購入 点数 累計	アクセス数 ( <sup>○</sup> は試し読み 含む)	1点当たり アクセス数	備考
2018	8	20 (43)	2.5	購入開始
2019	121	202 (312)	1.7	留学・留学生 関係 <sup>4</sup>
2020	202	910 (1,819)	4.5	学術書も購 入開始
2021	417	2,042 (3,003)	4.9	
2022	688	5,315 (9,141)	7.7	試読 <sup>5</sup> 実施
2023	798	8,251 (12,779)	10.3	8月分まで

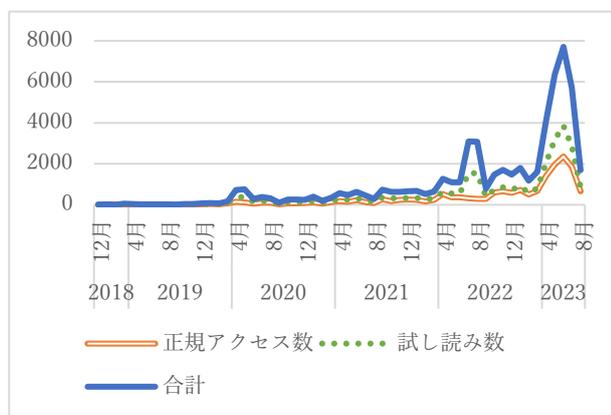


図1 KinoDen 2018/12-2023/8の月別アクセス数の推移

(2)MeL

MeLは2012年度より購入しており、2018年4月時点ですでに学術書を中心に4,000タイトル以上が利用可能な状態であった。しばしば雑誌やシリーズものをまとめて購入しており、洋書も含まれる。

MeLは購入点数自体が多いためKinoDenに比してアクセス総数はかなり多い。しかし2020年度以降1点当たりのアクセス数はKinoDenより少なく、減少傾向である(表2)。

表2 MeLの年度別アクセス数

年度	購入点 数累計	アクセス 数	1点当たり アクセス数	備考
2018	5,922	7,729	1.3	雑誌1,274 点含む
2019	6,216	15,556	2.5	試読実施
2020	6,996	30,199	4.3	試読実施
2021	7,870	29,071	3.7	
2022	8,084	23,470	2.9	
2023	8,189	13,739	1.6	8月分まで

図2の月別推移をみるとKinoDen同様授業期間中にアクセス数が増加する。なお2019年10月下旬から12月下旬、2020年4月下旬から6月下旬まで試読<sup>6</sup>を行ったためその期間はアクセス数の増加<sup>7</sup>がみられる。

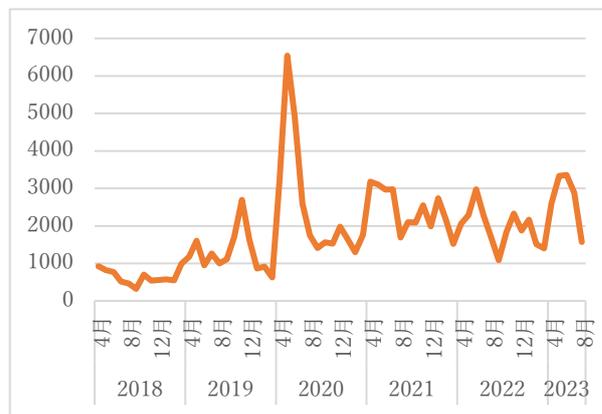


図2 MeL 2018/4-2023/8の月別アクセス数の推移

なお、2022年度4月にMeLのダウンロード・印刷サービスの停止があり<sup>8</sup>、それ以後も数度にわたりサービスの変更があった。一見、MeLはあまり利用されなくなってきたようだが、前述の2020年度の試読、2022年度から2023年度にかけてのサービス変更のアクセス数への影響を考えると、評価は保留しておくべきだろう。

4 「地球の歩き方」や語学書など。  
 5 KinoDen DDA:購入条件付きで全文を5分間利用できるサービス。電子ブック共同整備事業の一環として全館で実施した。本期間は試読の書誌データをOPACへ登録し、OPACからも検索できるようにした。試読の結果を参考に、複数分野にまたがる基礎的内容の学術書を中心に購入した。参考(お知らせ):<https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2022/20220630.html>  
 6 プラットフォームで5分間の試読ができる。OPACからも検索できるようにした。参考(お知らせ):<https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2019/20191025-2.html>, <https://www.library.tohoku.ac.jp/kita/news/2020/20200421.html>

<https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11674539/www.library.tohoku.ac.jp/guide/eresource/zaitaku.html>  
 7 統計に本アクセスと試読アクセスのデータが合算されているため、丸善データについては試読期間の試し読み数がアクセス数に含まれる。  
 8 変更の概要は次の「お知らせ」の通り:<https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2022/20220405.html>, <https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2022/20220428.html>, <https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2022/20220623.html>, <https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2022/20221201.html>

(3)評価

電子ブックの利用はこの数年で増加し、かつ2023年度になっても授業期間のアクセスが多いことから、ある程度利用の定着が見られると考えられる。

2.2 ダウンロード利用

電子ブックの機能の特徴として、端末上で閲覧するだけでなく、ダウンロード機能がある。前項で挙げたアクセス利用のうち、利用者がどの程度ダウンロードを利用しているのかについても見てみたい。

(1)KinoDen

KinoDenのダウンロードログは2019年7月以後分のみ取得できたため、2020年度～2023年度について集計を行った(表3)。比較するアクセス数は、2.1表1の試し読みを含まないアクセス数である。

表3 KinoDenのダウンロード回数

年度	アクセス数	ページ数 総計	回数	回数割合
2020	910	2,269	77	8%
2021	2,042	3,235	63	3%
2022	5,315	4,525	90	2%
2023	8,251	2,705	72	1%

ダウンロード利用のあったアクセスは、アクセス総数の10%にも及ばないことが分かった。特に2023年度の回数は非常に少ない。後述するMeLではダウンロード利用は20%以上あることを考えると、KinoDenは主に端末で閲覧するものとして使われていると言える。

ダウンロード機能が使われない原因としては、メニューが隠れていて見つけにくいことが大きいと思われる。また2023年度からは本館でもダウンロード不可のタイトルも購入するようになったため、ダウンロード回数の減少に影響があることも考えられる。

なお、ダウンロードされた電子ブックの点数は全期間合算して78点である。ダウンロード数の多かったタイトル上位10

点を調べたところ、2点はシラバス掲載図書、1点は学生の投票により購入した学術書、7点はTOEIC対策本であった。

(2)MeL

MeLのダウンロードログは2018年から取得できたため、2.1と同様に2018年度から2023年度について集計を行った(表4)。MeLもKinoDen同様、ダウンロード割合は減少していく傾向が見られたが、2021年度まではアクセス数の内2割以上はダウンロード利用がされている。2022年度以後の著しい減少は、前述のダウンロード・印刷サービスの停止と数度にわたるサービス変更<sup>9</sup>が影響したためと思われる。

なお、ダウンロード数上位10点のうち、2点がシラバス掲載図書、1点がTOEIC、1点が就職活動本で他は通常の学術書であった。

表4 MeLのダウンロード回数

年度	アクセス数	ページ数 総計	回数	回数割合
2018	7,729	165,383	3,506	45%
2019	15,557	229,816	4,865	31%
2020	30,199	299,789	6,556	22%
2021	29,072	291,156	6,394	22%
2022	23,471	40,504	1,110	5%
2023	13,740	8,416	288	2%

(3)評価

KinoDenとMeLとではダウンロード利用の割合が大きく異なることが分かった。これはプラットフォームのデザインの影響が大きいと考えられるが、MeLがダウンロードしにくい仕様へと変更になったため、今後のダウンロード利用はさらに減少していく可能性がある。

KinoDenユーザーのように端末上での閲覧利用だけでも可とする利用者層がMeLユーザーにも広がり、MeLのアクセス数が2021年度並みに戻っていくかどうか、今後の推移を注視したい。

これまでダウンロード機能を電子ブック購入の重要なポイントとしていたが、今後は特に重点をおかないことも考えられる。

9 ダウンロードにはメールアドレスによる認証が求められるようになった上に、印刷を含むメニューがデフォルトでは表示されないようになった。

### 2.3 閲覧時間

取得した統計のアクセス数は一瞬開いただけのものもカウントされるため、実態と離れている可能性がある。そのため各プラットフォームの提供者より取得したログから閲覧時間の分析を行った。ここでいう閲覧時間とは、接続し続けた時間のことである。

#### (1)KinoDen

アクセスログは2020年11月12日分から取得が可能であったため、分析範囲はそれ以降2023年8月31日までの30,199件である<sup>10</sup>。

KinoDenは「読む」ボタンを押してビューアーが立ち上がった後、無操作のまま10分経過すると、タイムアウトダイアログが表示され600秒で切断扱いとなる仕様のため、600秒は0への読み替えを行った<sup>11</sup>。また900秒以内の時点で何らかの操作停止(不具合)があった場合、記録上900秒として記録され<sup>12</sup>タイムアウトするため、900秒というデータも除外した。全データのうち約半数が除外対象となったが、14,772件について参考値として分析した。利用時間の割合を算出したところ表5の通りとなった。

表5 KinoDen閲覧時間

閲覧時間	アクセス件数
30秒未満	3,903
30秒以上1分未満	1,307
1分以上5分未満	2,166
5分以上10分未満	1,729
10分以上30分未満	4,359
30分以上60分未満	1,025
1時間以上	283

表5をグラフ化したのが図3であるが、グラフ化にあたって、30秒未満のデータは一瞬開いただけであったり目次のみの閲覧など実際は資料を利用していないとみなし、除外した。

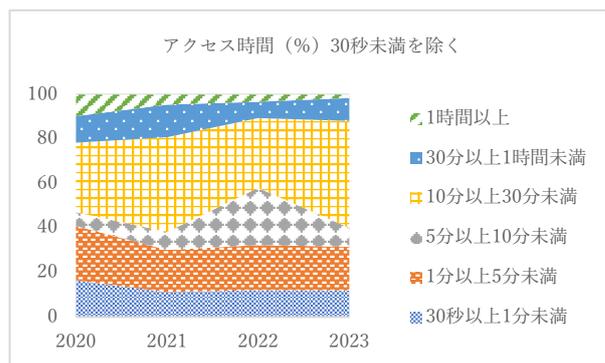


図3 KinoDen 閲覧時間

30秒未満の利用を除いた閲覧時間の平均は872秒(約15分)、中央値は601秒(約10分)である<sup>13</sup>。最長で66,258秒(約18.4時間)で、3時間を超える利用は2件あった。

なお、本データには一部の試し読みのログ(2020年度の通常の試し読みが68件、2022年度の試読による試し読みが2,339件)が含まれている。2020年度の試し読みは平均42秒<sup>14</sup>と短時間にとどまる。2022年度の試読による試し読みでは制限時間満了の300秒のデータが947件と約4割を占めており、全文が5分間読める試読においては実際に読まれているデータが多かった。2022年度の1/3のデータが試し読みによるものであるが「5分以上10分未満」データが他の年度より多いのは、試読による「300秒」のデータの影響である。

2.1においてKinoDenの利用は著しく増加していることがわかったが、閲覧時間については年度による傾向の変化はみられず、10分から30分間の利用が最も多く、5分以上閲覧する利用者が6割以上いることが伺える。

#### (2)MeL

MeLは対象期間においてすべてのデータが取得できたため、2018年4月1日から2023年8月31日までのアクセスログ119,764件を分析した<sup>15</sup>。本データには試読による試し読みのログも含まれるが、ログ上では購入済みタイトルか否かの判別はできない。

MeLは最後の操作から何もしないで10分経過した時に

10 算出法が異なるようであり、2.1のアクセス統計(表1)の数値とは異なるが、利用時間に着目して分析するためログを使用する。

11 実際にぴったり600秒間閲覧した場合も含まれるが、見分けがつかないため一律に除外した。「600」のデータは635件。なお、「600」を除く「595~605」のデータは559件ある。

12 900秒のデータには1秒から900秒の閲覧が含まれる。「900」のデータは14,792件。

13 30秒未満を含む場合、平均645秒、中央値300秒。

14 300秒台のデータが3件、1300秒台のデータが1件と5分以上のものがあったが、この4件は異常値として除外した。

15 MeLは2.1アクセス統計(表2)と数値が合致する。

自動的にタイムアウトとなることであるが、10分以内の利用においてもタイムアウトと記録されているものが2割ほどあったため、タイムアウト要件が正確に動作しているかは不明である。そのため分析は閲覧時間から600秒を引いた補正值ではなく、ログとして記録されている数値において行った(表6)。

表6 MeL閲覧時間

閲覧時間	アクセス件数	うちタイムアウト件数
30秒未満	34,962	5,484
30秒以上1分未満	16,610	2,454
1分以上5分未満	31,587	6,633
5分以上10分未満	17,034	4,218
10分以上30分未満	13,893	5,744
30分以上60分未満	3,967	1,655
1時間以上	1,709	459

KinoDen同様30秒未満を除いてグラフ化したものが図4であるが、5分未満の利用が過半数を占めている。2019年、2020年は試読を行ったため、KinoDen同様、5分以上10分未満の割合が若干多い。

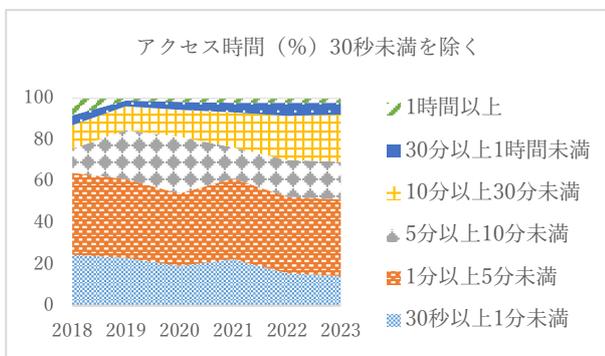


図4 MeL 閲覧時間

30秒未満の利用を除いた閲覧時間の平均は566秒(約9分)、中央値は217秒である<sup>16</sup>。最長で44,715秒(約12.4時間)で、3時間を超える利用は245件あった。

MeLの利用時間は年を追うごとに5分未満の利用が徐々に減少し、10分以上の利用が増加している傾向がみられる。

(3) 評価

5分未満の利用が3割~5割程度と比較的層が厚い。図書の必要箇所のみでのチェック等で利用されているためであろうか。冊子の図書の場合はこのような利用でも占有時間が長くなり他者が利用できなくなるため、回転のよい電子ブックを利用する利点といえよう。

前述の通り除外対象データが多いこと、タイムアウト要件として各社より提示された条件と実際のログが異なる箇所があり正確な値ではないが、本件からは電子ブックの実際の利用時間が伺えた。より正確な実態把握のため各社にはログの精度改善を求めたい。

KinoDen, MeLともに同一IPで利用時間の近いログが続いている箇所が散見される。いずれもタイムアウトとなった後で再度アクセスされた痕跡と思われるが、このような利用は閲覧時間としては分断されているため、レポート執筆がメインで傍らで本を開いている状態のような待機時間も含めると、もっと長いと予想される。

プラットフォームごとに利用時間に差異が見られた。分野による特徴があるのかどうか、それぞれの分布帯におけるタイトルの分析を今後の課題としたい。なお、分析の手始めに、2023年度のアクセス数上位20点についてアクセス時間を分析したところ、SPIやTOEICなど練習問題を解く形式の図書はKinoDen, MeLともに平均1,000秒を超えるなど、比較的長時間利用されている傾向が伺えた。また、MeLにおいて閲覧時間の増加傾向があったため、ダウンロード可否との相関関係についても確認したい。

2.4 アクセス方法および時間帯

アクセスログにはIPアドレス情報がある。ここから学内からのアクセスか学外(VPN, 学認)からかを調べた結果、KinoDen, MeLともに、学内・学外がおおよそ半々であった(表7)。電子ブックは来館せずに使えるサービスとして認識していたが、およそ半数が学内のPCからのアクセスという結果となった。ただし、学内には部局独自のVPNも含まれている<sup>17</sup>ため、実際は学外アクセスの方が多いと思われる。

なお、シラバス掲載図書は電子ブックを優先して購入しているため、教科書の代わりとして授業時間中にアクセスされ

16 30秒未満を含む場合、平均404秒、中央値は89秒。

17 部局VPNのIPアドレスが公開されていないため、厳密にVPN接続を切り出すことができなかった。

るのか調べたところ、2023年上位20点のシラバス掲載図書(後述表9,11)では、1点のみ(参考書指定)eduroamでの接続が数回見られたが、他は0回もしくは1回であった。授業で利用する教科書は基本的に自身で購入していること、同時アクセス数が少ないことから、授業中の電子ブックの閲覧はほぼないようである。

表7 アクセス元

アクセス元	KinoDen	MeL
学内	6,488	7,491
(うち図書館端末)	(61)	(25)
学内(eduroam)	665	134
学外(学認)	6,436	6,084
学外(全学VPN)	52	30

また、どのような時間帯で利用が多いのかを調べるため、KinoDen2023年度のアクセスログから閲覧開始時間を抽出した(図5)ところ、日中の利用が多い。この傾向は年度による変化は見られず、MeLの結果も同様であった。

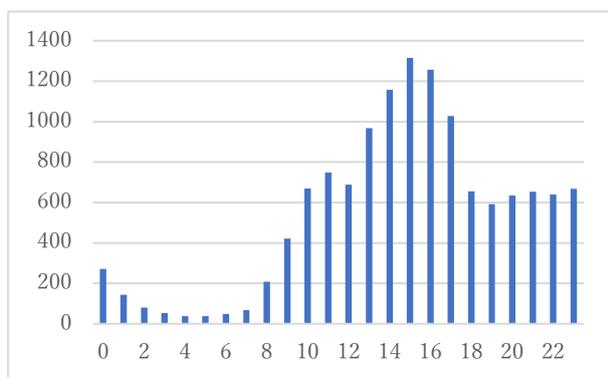


図5 KinoDen(2023年度)の閲覧開始時間帯

## 2.5 学生への聞き取り調査

ここまで統計やログから傾向を見てきたが、本項では学生への聞き取り調査から電子ブックの利用傾向分析の参考とする。

2022年度に本館にインターンシップに来た8名の学生へ電子ブック利用について聞き取り調査を行った。学部・学年は様々<sup>18</sup>であり、2名は留学生である。8名中電子ブックを

常用しているのは1名のみであり、1名は使ったことがなく、1名は存在を知らなかった。

聞き取り調査では次の意見が寄せられ、学部や学年による傾向よりも個人の性質による影響が大きい印象を受けた。

### 【電子ブックを使う時・使いたい時】

- ・教科書として指定されている時
- ・レポート・課題が出た時
- ・ハンドブック等の通読しないもの
- ・自宅にいる時
- ・必要に迫られて使う時:論文は電子でないと困る

### 【冊子を使う時】

- ・教養を深める内容の時
- ・通読する時
- ・書き込み・意見交換をする時
- ・レポート作成時はPCを使うため、資料としては冊子を広げたい
- ・授業関連の調べ物は冊子を利用:目次のブラウジング、パラパラ読みなどができ、冊子の方が知りたい内容の本が見つかることが多い
- ・必要な本がそもそも電子ブックとして存在しない

### 【電子ブックの使用感】

- ・読みづらい(見開き表示できない、ノートPCではサイズ感の融通が利かず小さすぎる、等)
- ・印刷できないのが不便
- ・電子ジャーナルのようなPDFがよい
- ・複数のプラットフォームの中でそれぞれ探すよりもOPACでまとめて検索できる方が楽

これらの意見より、電子ブック利用のためには、必要な資料がそもそも電子ブックとして整備されていること、電子ブック使用時のストレスをなくすことが前提としてみえた。冊子より電子が優れている点として、プラットフォームで検索すれば全文検索ができ、思いがけない資料からの情報入手ができるという特徴があるが、この点に言及する学生はいなかつ

18 文学部3年生2名, 以下各1名:教育学部1年生(留学生), 国際文化研究科博士前期課程1年生(留学生), 理学部2年生, 理学部4年生, 工学部2年生, 農学部3年生。

た。冊子を使うポイントとして「書き込み」が複数名から挙げられており、逆にiPadで書き込めるからPDFが良いという意見もあった。

聞き取り調査の対象は図書館に興味を持っている層であり、従来の冊子の本を好むという傾向が潜在的にあることは否めない。アクセス統計からは電子ブックの利用が伸びているという結果が出た一方で、抵抗を感じる層もまだ多いことが伺えた。

## 2.6 まとめ

本章では電子ブックがどのように利用されているのか、近年の傾向を分析した。

統計から、COVID-19を機にアクセス数は増加し、それ以後もほぼ横ばいであり電子ブックが定着してきたと読み取れる。一方で、必要な図書が電子ブックになっていないという学生の意見があり、実際に、冊子と同時に刊行される電子ブックの数は未だに少なく<sup>19</sup>高額で、電子ブックを揃えにくい状況にある。各社へはコンテンツの充実を求めたい。

印刷ができず不便という学生の意見があるが、ログを見るとダウンロード割合が減少しており、ダウンロード機能を十分に活用できていない利用者の存在が明らかとなった。

各社へはプラットフォームの使いやすさと安定性<sup>20</sup>を求めたい。図書館としては利用方法の周知、フォローが必要と思われる。

## 3. 利用されているタイトルの分析

本章ではどのような電子ブックが利用されるのか、あるいは利用されないのか、様々な観点から分析を行う。

### 3.1 アクセス上位タイトル

前述2.1のアクセス統計(2018年4月1日～2023年8月31日)から、KinoDen, MeLそれぞれ上位20点を確認したところ、表8および10の通りであった。また、2023年前期授業期間中(4月～7月)は両プラットフォームにおいて利用が伸びたため、同期間中のアクセス数上位についても別途リストアップした(表9,11)。

#### (1)KinoDen

表のアクセス数には試し読みの件数も含む。正規アクセスのみとした場合、順位の入替わりは若干あるが、ランクインタイトルはほぼ変わらない。

表8 KinoDenアクセス数上位20点(2018-2023累計)

書名	アクセス数	シラバス <sup>21</sup>	2022試読	2023上位20点
大学の学び	429		○	○
MATLAB対応 デジタル信号処理 第2版	373	工学・教科書		○
Python機械学習プログラミング 第3版	324	経済・参考書		
TOEIC®L&Rテスト 精選模試 リーディング	323			○
多様性との対話	317			○
大学生になるってどういうこと? 第2版	308		○	○
AIにできること、できないこと	306		○	○
Applied AI	299			○
支払決済法 第3版	265	2021経済・?		○
関正生の TOEIC®L&Rテスト文法問題 神速100問	260			○

19 2023年度に本館で発注した図書のうち、2023年12月現在で電子ブックとして刊行されているものは、全体の25%以下であった。刊行から2か月以内の場合15%程度である。

20 丸善雄松堂主催ウェビナー「第4回 Maruzen eBook Libraryウェビナー 電子書籍の利活用事例紹介」によると文理大学、明治大学も同様に2021年が最高値で2022年に減少する傾向

が見られたようである。MeLはアクセス自体が不可能にならなかったにも関わらずアクセス数が減少した。ダウンロード・印刷ができない、従来よりも手間がかかるなど利用の際のストレスが2度目の利用を阻害したのではないかと考えられる。

21 年度未記載のものは2023年度シラバス。表9～11も同じ。

書名	アクセス数	シラバス <sup>21</sup>	2022試読	2023上位20点
TOEFL ITP®テスト 完全制覇	240			
Pythonで学ぶ 流体力学の数値計算法	189			
デジタル革命の社会学	180			○
やさしく学べる線形代数	176	全学・教科書		○
TOEIC®L&Rテスト 精選模試 リスニング	150			
TOEFL®テスト ポキャブラリー+例文3900	146			
TOEIC®テスト 新形式精選模試 リーディング	144			
エース薬理学	137			
TOEIC®テスト 新形式精選模試 リーディング	136			
Pythonで学ぶ音声認識	136			

表9 KinoDenアクセス数上位20点(2023年4月～7月)

書名	アクセス数	シラバス	備考
大学の学び	418		2022試読
AIにできること, できないこと	299		2022試読
大学生になるってどういうこと? 第2版	296		2022試読
Applied AI	296		
支払決済法 第3版	254	2021経済・?	
多様性との対話	226		
デジタル革命の社会学	175		
TOEIC®L&Rテスト 精選模試 リーディング	173		
やさしく学べる線形代数	168	全学・教科書	
MATLAB対応 デジタル信号処理 第2版	155	工学・教科書	
関正生の TOEIC®L&Rテスト文法問題 神速100問	146		
大学生の学びを育むオンライン授業のデザイン	120		2022試読
先読み! IT×ビジネス講座 ChatGPT	115		非購入 <sup>22</sup>
アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学	97	経済・参考書	
メディアリテラシーを学ぶ	91		2022試読
パンデミックの倫理学	87		2022試読
大学1年生からの 社会を見る眼の作り方	81		
相対論的量子力学	80	※ <sup>23</sup>	
協力の条件	75		
スモールデータ解析と機械学習	74		2022試読

22 試し読みだけのもの。

23 予算コードはシラバスとなっているが, 購入年度のシラバス上では確認できず。

KinoDenの上位20点のうち、7点がTOEIC関連本であった。ただし2023年度のみには絞ると授業期間中ということもあってか2点のみであった。

シラバス掲載図書はよく使われるだろうという前提で積極的に電子ブックの購入をしているが、予想に反して3点のみ(うち1点は参考書)という結果となった。

上位に「大学」「大学生」「多様性」といった図書がランクインしているが、これらは2022年度に初年次全学部向けに開設された「学問論」という授業のテーマであり、シラバスに指定されていないものの、その授業の影響とみられる。さらに「AI」「デジタル」「ChatGPT」など時事的なワードも見られ、社会的関心からアクセスされるものも多いようである。

また、KinoDenの場合、2022年より利用が急激に伸びているため、2022年度に実施した試読の影響があるかどうかについて、試読結果によって購入したタイトルが20位までに

含まれているかによって確認した。全期間では3点が、2023単年度では7点が上位20点に含まれており、利用者のニーズに沿った選書がアクセス数の伸びに貢献しているようである。

上位タイトルの学術書は購入済みであるにもかかわらず「試し読み」も多く、複数人が同時にアクセスした形跡が伺える。一方TOEICは「試し読み」によるアクセスは少なく、複数の利用が重なることは少ないようである。

なお、全期間と2023単年度でランクインタイトルがほぼ近いのは、2022年度から利用が急増しており、2022年度、2023年度の統計が全体の統計に与える影響が大きいと思われる。

(2)MeL

表10 MeLアクセス数上位20点(2018-2023累計)

書名	アクセス数	シラバス	2023上位20点
例題でわかる伝熱工学 一熱の移動が図でみえる—第2版	1,260	工学・教科書	○
Introductory econometrics —a modern approach—6th ed.	1,253		
解析入門 1 (基礎数学 2)	1,088	全学・参考書	○
生理学テキスト 第8版	896		
新組織学 フルカラー新装版 第6版(Qシリーズ)	730		
Foundations of heat transfer 6th ed.	626	工学・教科書	○
新生理学 フルカラー新装版 第6版(Qシリーズ)	621		○
カラー図解神経解剖学講義ノート	611		
多様体の基礎 (基礎数学 5)	581	理学・参考書	○
会社四季報業界地図 2023年版	535		○
就職四季報総合版 2023年版	510		
臨床免疫学 新版, 第3版	478	医学・参考書	○
就職四季報総合版 2024年版	446		○
機構学 改訂(機械系大学講義シリーズ 12)	444		
会社四季報業界地図 2021年版	434		
就職四季報総合版 2021年版	390		
TOEIC L&Rテスト直前の技術	386		
問いからはじめる発達心理学 一生涯にわたる育ちの科学— (有斐閣ストゥディア)	376		
量子統計力学 一マクロな現象を量子力学から理解するために—	368		

書名	アクセス数	シラバス	2023上位20点
(フロー式物理演習シリーズ 10)			
SPI 2024年度版 一要点マスター!一	356		○

表11 MeLアクセス数上位20点(2023年4月~7月)

書名	アクセス数	シラバス
会社四季報業界地図 2023年版	484	
就職四季報総合版 2024年版	421	
就職四季報総合版 2023年版	256	
SPI 2024年度版 一要点マスター!一	246	
TOEIC L&Rテスト直前の技術	203	
臨床免疫学 新版, 第3版	193	医学・参考書
多様体の基礎 (基礎数学 5)	183	理学・参考書
例題でわかる伝熱工学 一熱の移動が図でみえる一第2版	123	工学・教科書
MRI完全解説 一決定版一第2版	101	医学・参考書
Foundations of heat transfer 6th ed.	99	工学・教科書
複素関数入門 (現代数学への入門)	91	全学・参考書
弾性体力学 一変形の物理を理解するために一(フロー式物理演習シリーズ 16)	85	理学・?
U-CANの日本語能力試験N1これだけ!一問一答集 一文字・語彙一	83	
就職四季報優良・中堅企業版 2023年版	82	
Pythonによるバイオデータ解析入門	79	
解析入門 1 (基礎数学 2)	78	全学・参考書
型システム入門 一プログラミング言語と型の理論一	77	
新生理学 フルカラー新装版 第6版(Qシリーズ)	77	
論文図表を読む作法 一はじめて出会う実験&解析法も正しく解釈! :	74	
生命科学・医学論文をスラスラ読むためのFigure事典一(実験医学 別冊)		
キクタンTOEIC test score 800 改訂版【音声付】	73	

MeLの上位20点のうち、6点が就職活動関連本、1点が語学書で他は学術書がランクインした。

MeLは全期間と2023単年度のみではランクインタイトルの入れ替わりが見られる。2023年のうち就職活動・TOEIC対策でもなくシラバスに掲載されてもいない図書は4点あったが、うち3点はある月のアクセス数が突出しており、授業内等での働きかけがあったのではないかとと思われる。

### (3) 評価

授業に関連した図書、就職活動関係図書、資格関連本が上位に来ており、冊子の貸出冊数と似た傾向が伺える。冊子の利用傾向の分析が、電子ブックとして優先して購入すべきものの判断材料となり得る。

### 3.2 シラバスとの相関関係

シラバス掲載図書はよく利用されるという前提のもと、電子ブックを優先して購入してきたが、実際にそうなのかを検証するために、2023年度のシラバスとアクセス統計(前述2.1)を突合した。ただし、本学のシラバスでの教科書・参考書・演習書の記載は、ISBNが未記載、書誌情報に誤記がある、旧版が指定される、などの問題があり、完全な突合はできなかった。全学部のまとまったデータがないため、本項では2023年度前期の全学教育科目シラバスのみを対象とした。より正確な動向を知るための各学部シラバスとの突合は今後の課題としたい。

2023年度前期の全学教育科目のうち、重複および非流通品を除くと359冊がシラバス指定されており、うち76冊を電子ブックとして所蔵していた(うちKinoDen33点、MeL36点:2023年8月末時点)。

教科書指定されておりKinoDenで閲覧できるものは12点であった。2022年度以前に購入した4点はアクセス数がすべて20回を超えており、利用が好調である様子が伺える。8点は2023年7月上旬に購入した<sup>24</sup>ため、アクセス数は0回~16回程度と利用はまだ少ない。参考書指定されているKinoDenは18点あり、うち5点が2022年度以前購入分で、こちらも平均30回と好調である。今年度購入した13点はほとんど利用がないものと、多く利用されているものとで二分された。演習書指定の3点はいずれも今年度購入分だが、利用は平均25回と好調であった。

教科書指定されているMeL7点のうち6点が2022年度以前購入で、アクセス回数は平均16回であった。参考書指定されているMeLは24点あり、うち20点が2022年度以前購入であるが、KinoDen同様、利用は二分された。なお、MeLで契約しているにも関わらずKinoDenで試し読みされているものも4点ほど見られた。

以上のことからシラバス指定の図書は概ね利用されていると言えそうである。ただし、全点がよく利用されているとは限らず、教科書を購入するかどうか、参考書・演習書に言及があるかなど、教員の授業内での働きかけが大きく左右すると思われる。

### 3.3 書名頻出語句

どのような電子ブックがよく利用されるのか傾向を探ることにより、冊子を購入するか電子を購入するかの参考とするため、書名に出てくる単語の分析を行った。前述3.1において、上位タイトルの傾向は見えたが対象が限られるため、2018年4月1日から2023年8月31日までのアクセス統計(前述2.1)のうち、期間中累計10回以上アクセスされたもの(KinoDen, MeLともに約500点)を分析対象とした<sup>25</sup>。なお、このアクセス統計は、開いただけで読まれなかったものも数時間にわたり利用されたものも、同じ1としてカウントされている。

KinoDen, MeLそれぞれ書名ごとのアクセス統計を合算し、Google Colab上でPythonを実行し、書名をMecabにより形態素解析し、頻出語句を出力した。頻出語句は各タイトルのアクセス数を乗じている。「版」「学」や助詞等のノイズを除いた結果のうち、上位50位にランクインしたものは表12の通りで、それをワードクラウドで示したものが図6,7である<sup>26</sup>。

表12 書名頻出語句

KinoDen	アクセス数	MeL	アクセス数
テスト	1,856	四季報	1,334
入門	1,502	年度	1,030
Python	1,460	入門	914
TOEIC	1,411	統計	867
学ぶ	1,344	就職	832
精選模試	968	2022	766
R	865	総合	735
学習	830	SPI	680
大学	792	2024	630
L	733	業界	536
法	729	会社	502
大学生	711	地図	502
AI	699	学ぶ	484
リーディング	691	2023	483
学び	682	カラー	483

24 いずれも冊子は所蔵済み。

25 アクセス回数1回以上のものを対象とした際にエラーで読み込めなかったため、対象を絞り込んだ。

26 ワードクラウドはファンブライト@ラボにて作成した。  
<http://lab.fanbright.jp/wordcloud/list>

KinoDen	アクセス数	MeL	アクセス数
機械	677	要点	464
社会	661	科学	453
基礎	655	マスター	451
科学	606	英語	450
英語	564	基礎	432
経済	561	Python	420
プログラミング	555	解析	403
力学	537	データ	395
形式	518	フル	366
代数	516	学習	365
物理	494	疾患	352
線形	479	法	339
統計	479	2025	334
教育	473	分析	333
解析	447	組織	329
TOEFL	445	解剖	320
データ	443	力学	298
論	424	経済	289
多様	422	研究	260
処理	419	病理	251
信号	419	2021	248
デジタル	419	社会	246
問題	418	医学	229
工学	418	論文	226
対応	415	生理学	225
リスニング	398	臨床	225
文法	392	解法	219
日本語	388	極意	219
事典	384	実践	218
MATLAB	373	編	215
数学	340	プログラミング	213
微分	318	機械	210
対話	317	内科	187

KinoDen	アクセス数	MeL	アクセス数
地球	315	研修	185
現代	312	人	183



図6 KinoDen2018-2023出現上位の単語



図7 MeL2018-2023出現上位の単語

表12の網掛けは、KinoDenとMeLに共通して50位にランクインした単語である。上位15件ほどは、後述の閲覧回数が多い書名の影響を大きく受けた結果となったため、範囲を広げて50件を分析対象とした。

(1)KinoDen

①デジタル技術関連、②語学関連、③学術書の利用が多い傾向が見られる。

①デジタル技術関連:「Python」「R」<sup>27</sup>「データ」「プログラミング」「デジタル」などの語句から、プログラミングやデータ分析・データ処理などに関心を持たれているようである。

②語学関連:「テスト」「TOEIC」「精選模試」「リーディング」「英語」「形式」「TOEFL」「対応」「リスニング」「文法」「日本語」など、語学学習、試験対策本が上位を占めた。これらの単語に表記の揺れが少ないこと、通読するよりも何回かに分けて利用することも、上位に来た理由と思われる。

③学術書:ランク20位以降に学術書関連の語が出現している。理工系学術書は書名に学問分野が端的に示されている図書が多いことから、単語として累計すると上位にランクインする。さらに理工系は学生数も多く、複数人からアクセスされたためでもあろうと推測する。

27 TOEIC R&LのRが切り出されているため、プログラミング言語の「R」としては100件程度と思われる。

(2)MeL

①就職活動関連, ②医学関連の利用が多い傾向が見られる。

①就職活動関連: 上位15位以内に「四季報」「就職」「会社」「経済」「2022(ほか年度を表す数字)」「SPI」など就職活動関連用語がランクインした。就職活動関連本は図書館ではなくキャリア支援センターで購入しており, 同時アクセス数が多く(最大6)設定されており, 多くの学生が一度にアクセスできることも利用の多さに結びついているのであろう。

②医学関連: 「疾患」「組織」「解剖」「病理」「生理学」「臨床」など医学関連の語句が多い<sup>28</sup>。理工系同様、書名に用いられる単語が固定されているため, 様々な図書が合算され上位に来ている。学生数のわりに他学門分野より利用が多いのは, 医学書は冊子が重たく, 電子ブックの優位性が高いためであろうか。

(3)評価

電子ブックの利用も冊子と同様, アクセスの集中する資料のほかに様々な本へのアクセスが少数ながらもあるため, 裾野を500点に広げて分析したところ, その傾向も上位20点と近いという結果が出た。従来通り基本的内容の学術書を中心に選書する方針でよさそうである。

3.4 非購入だがアクセスの多いタイトル

図書館ではこれまでもアクセス拒否統計を元にした選書を行ってきた。今後も所蔵状況や選書基準を鑑み, 利用が見込まれるものは購入候補となると思われるが, 本項ではどのような傾向がみられるのかを分析する。

2023年度のKinoDenのアクセス統計のうち, 非購入で試し読み数の多いものを分析対象とした<sup>29</sup>。2022年度に実施した共同整備<sup>30</sup>では試読のアクセス統計をもとに, 選書基準に合致し複数館での利用が見込まれるものを購入した。そのため2023年8月時点では, 基本的な内容の学術書で非購入かつアクセス数が多いものものが少なく, 15回以上アクセスされたものは9点であった(表13)。また, すでに冊子を所蔵しているもの, MeLでの閲覧が可能なものも含まれている。

プレゼンテーションに関するものが3点あるが, いずれも刊行から年数が経っており過年度で購入を見送ったものと思われる。

1回以上アクセスのあった非購入KinoDenの書名の出現単語は図8の通りである。学術的な単語が多いが, 購入対象外である「ビジネス」や時事的な「新型コロナ」「AI」などのワードもみられる。

表13 KinoDen非購入タイトル上位

書名	アクセス数	所蔵
ChatGPT: 対話型AIが生み出す未来	115	有
責任あるAI	28	有
AIが「答えの出ない問題」に答えを試みた。	25	
これだけ! プレゼンの本質	21	
パンデミックとたたかう	20	有
プロフェッショナル・プレゼンテーション	19	
「役に立たない」研究の未来	17	有
いちばんやさしいAI(人工知能)超入門	16	有 MeL
ビジネスプレゼンテーション	16	



図8 KinoDen 非購入でアクセスがあったもの(2023)

MeLは非購入のアクセス拒否統計を出力することができないため分析できなかった。

28 医学分館ではKinoDenを購入していないためKinoDenにはこの傾向はみられない。  
29 本稿における分析は基本的に2018年度から2023年度で行っているが, 過去年度の統計を含めると, 試し読みの結果を踏まえて購入したものも含まれるため, 本項では2023年度のみとした。

30 従来は各館で独自に選書をしていたが, 本館と分館で合同で電子ブックの選書を行った。

### 3.5 1回もアクセスされていないタイトル

ここまで、よく利用される電子ブックの傾向を探ってきた。本項では逆に利用されなかったタイトルの傾向を調べ、電子ブックとして購入しなくてもよいものは何か、判断材料の一つとする。検収と受領の確認のため最低2回は図書館職員にてアクセスを行っている<sup>31</sup>。そのためアクセス回数が2回以下のアクセス統計(前述2.1)と購読タイトルリストとの突合を行った。

#### (1) KinoDen

798点中アクセスが2回以下のタイトルは103点あった。うち17点が「地球の歩き方」シリーズ、11点が「〇〇を知るための〇章」シリーズ、9点が日本語・英語を除く語学書であった。COVID-19以前は冊子でよく使われていたシリーズであるが、これらを購入した2019年11月末の直後にCOVID-19で出入国が困難になり、その後も自粛や円安の影響もあり、未だ需要が回復していないのであろう。

ついで、事典・辞典・ハンドブックが11点であった。禁帯出指定されることがあり、重くかさばるなど利便性が悪いため、電子ブック購入の優先順位が高いレファレンスブックである。アクセスがなかったのはいずれも専門事典であった。

残り55点について、NDC分類<sup>32</sup>で区分した(表14)。

表14 KinoDenアクセスされていないタイトル

NDC	0-2アクセス	閲覧可能冊数
0総記	1	42
1哲学	0	39
2歴史	2	94
3社会科学	26	201
4自然科学	18	232
5技術工学	0	57
6産業	0	13
7芸術	0	7
8言語	4	116
9文学	4	17

件数が少なく、傾向と呼べるほどの特徴は見いだせないが、強いて言えば、経済・法学・薬学等の専門性が高く、学生数が少ない分野の図書が比較的多いようである。なお、このうち26点が受入から2か月以内のものである。

#### (2) MeL

MeL管理者画面から取得できるアクセス統計と、購読タイトルリストでは同定ができなかった<sup>33</sup>ため、丸善雄松堂より取得したログ(前述2.3)を元に分析した。

2018年以後に購入したMeL3,844点のうち、アクセス数が2回以下のタイトルは1,775点であった。うち、雑誌の『学燈』1,262点、『bit』295点を除くと、図書は218点である。

MeLの購読タイトルリストにはNDC分類が付与されておらず、分類が記載されているアクセスログの別紙統計との突合により算出した。アクセス数が0回のもはNDCの手掛かりがないため、目視でタイトルにより大分類のみ付与した。結果は表15の通りである<sup>34</sup>。4自然科学のうち8割が49医学<sup>35</sup>を、6産業のうち6割を66水産業が占めている。両者ともシリーズでまとめて購入したものであり、パッケージ購入は再考の余地がある。

表15 MeLアクセスされていないタイトル

NDC	0-2アクセス
0総記	3
1哲学	17
2歴史	26
3社会科学	78
4自然科学	142
5技術工学	21
6産業	70
7芸術	6
8言語	16
9文学	6
雑誌	1,635

31 実際には確認漏れによりアクセス数が0や1のものも見られた。

32 KinoDenのリストにはNDC分類が付与されている。

33 アクセス統計にはコンテンツIDはなく、ISBNが書かれているがタイトルリスト記載の冊子体ISBNではないISBNが記載されていることがあり、VLOOKUPでの値の取得ができなかった。

34 母数となる分類ごとの閲覧可能冊数は、アクセス統計との突合ができなかったため算出できていない。

35 うち半数が動画コンテンツ。

### 3.6 まとめ

本章ではどのような電子ブックが利用されるのか、またはされないのかの分析を行った。シラバス等授業内で働きかけのあったと思われる図書や基本的な学術書、TOEIC等の語学書や就職活動本などの利用が多くみられた。

利用される電子ブックを分析することにより、電子で購入した方がよい図書の選定の一助となる。また逆に利用されないものについては電子ブックの購入を避け、冊子購入を充実させるなどの判断材料とする。AI、COVID-19など進歩の著しい分野やトレンドは数年で変わるため、利用実態を元にした選書のための分析は、定期的実施しアップデートした方がよい。

## 4. 電子ブック利用への誘導

電子ブックはほとんどが冊子体よりも高額であり、限られた予算の中でやりくりしている以上、より活用されることを望んでいる。各館で利用促進の取り組みを行っているが、本章では筆者が電子ブック促進を担当した2021～2023年度にかけて実施したものについて効果検証を行う。

### 4.1. 館内デジタルサイネージでの掲示(書影・QRコード)

2022年に試読結果をもとに本分館の電子ブック共同整備を行い、電子ブック100点(KinoDen93点、ProQuest7点)を購入した。周知のため開通後3か月間、本館学生閲覧室へ上がる階段手前にデジタルサイネージを設置し、スライドショーで書影とQRコードを掲示した(1スライド5冊10秒)。QRコードは追跡機能付きのものとし、QRコードでアクセスした回数が取得できるようにした。

結果、75%の図書はアクセスが0回であり、1回アクセスされたものが20%、2回以上アクセスがあったものは5%にとどまり、期待していた周知効果は得られなかった。アクセスがあったものはほとんどが掲示から1か月以内のアクセスであったため、掲示を行うのであれば、常時掲示するよりも期間を限定して掲示する方が周知効果が高いと思われる。

なお、掲示は10月4日に開始したが、平日1日あたりの

KinoDenのアクセス回数の平均は前週より+10～20程度であり、授業期間開始の影響も加味すると図書館内での掲示の効果は薄いようである。

類似の広報として2021年夏ごろより図書情報係において本館学生閲覧室2階の新书推荐コーナーに電子ブックのQRコードを掲示している<sup>36</sup>が、こちらは追跡ができず、掲示の効果については検証できていない。

なお、前述2.5の学生2名からは「(本分館での電子ブックに関する)掲示は知っているが素通りした。電子ブックがあるという認識はできているのではないか」という意見が寄せられており、直接の利用にはつながりにくいものの、潜在的な認識への働きかけの効果はありそうである。

### 4.2. Twitter<sup>37</sup>

当館公式アカウント@hagi\_no\_sukeにおいて、2020年8月より毎日電子ブック広報の投稿をしている<sup>38</sup>。2021年8月以降は土日祝日の昼12時に1冊ずつ「[#電子ブック 紹介] 『書名』 #著者名 #出版社名 URL 本の紹介文」という内容で予約投稿している。

Twitterによる広報の効果を測るため、2023年4月から8月に投稿した42件<sup>39</sup>について統計を調べた。この期間の投稿で紹介した資料はいずれも試読結果を踏まえて2022年9月末に購入したKinoDenである(前述4.1に同じ)。

2023年10月4日現在で各ツイートの情報を確認したところ、平均でリツイート0.2回、いいね1.8回、インプレッション数2,300回程度であった。

ツイートを見て電子ブックにアクセスした数を調べるため、投稿日とその翌日の該当図書のアクセスログを確認した。結果、特異値を除いた平均アクセス数は0.3回であり、Twitterでの投稿はほとんど直接の利用にはつながっていないことが判明した。

しかし、前述4.1の共同整備事業で購入した電子ブックの利用開始について投稿した2022年10月3日には、KinoDenへのアクセス数が100回<sup>40</sup>と、前後の平日の3～5倍のアクセスがあった。同日に当館Webサイトのお知らせに

36 A3用紙に12点ずつ記載した。

37 正式名称はXであるが、執筆時点で本館ではTwitterとして扱っているため本稿でもそれに倣いTwitterと称する。

38 永澤 恵美「東北大学附属図書館におけるSNS活性化プロジェクトと現状」『大学図書館研究』, 121巻, 2022, <https://doi.org/10.20722/jcul.2137>

39 TwitterにView Countsが付与されたのが2022年12月22日のため、対象を2023年度に絞った。

40 同じ図書へのアクセスは最大3回であり、様々な図書へのアクセスがあったようである。

も掲載しているため、Twitterのみでの影響かどうかは測れない<sup>41</sup>が、お知らせはスクロールしないと視界に入らないことを考慮すると、ほぼTwitterによる影響と言えるだろう。個別の電子ブック紹介に効果は見られないものの、投稿内容によっては着目を期待できそうである。

フォロワーには卒業生が数多く含まれているものの、約8,000人に対して電子ブック紹介ツイートは平均約2,000回表示されているため、直接の利用に結びつかずとも、電子ブックの存在自体のPRにはなっていると思われる。

#### 4.3. まとめ

ポスター掲示の効果がはかばかしくないという感覚があったため、目を引きやすいデジタルサイネージを利用したが、こちらの効果も期待するほどは得られず、また、SNSによる広報の成果も労力に比して少ないという結果となった。

他にも学内では以下の広報をしているが、それぞれのツールについての効果測定は難しい。

- ・(全点)OPAC新着図書への登録<sup>42</sup>
- ・(冊子を所蔵している場合)書架へ台本板
- ・返却のしおりで図書紹介

図書館資料をOPACで調べることは大半の学生が身に付けていると思われる。現在は買切で購入した電子ブックはOPACへ登録しているため、アクセス可能にもかかわらず、発見されずに利用されない、ということは考えにくい。2章で言及した通り、まずはコンテンツを充実させることを最優先とし、電子ブックを周知するための広報から、より利用してもらうための周知へ進むタイミングとなったと思われる。

#### 5. おわりに

本学では継続して電子ブックを購入してきたが、本調査により利用の傾向をある程度掴むことができた。

##### 【よく利用される図書】

- ・授業と密接にかかわるもの(シラバス掲載図書、授業テーマに関する基本図書)
- ・時事的な資料
- ・語学参考書
- ・就職活動

##### 【利用が少ない図書】

- ・パッケージ購入資料(特に動画コンテンツ)

本館での冊子を含めた選書方針として、COVID-19やデジタル関係、国際紛争など状況が刻々と変わる時事的な資料については、学問として記述されていない限り、評価や定説が定まっていないものとして購入を控えてきた。また資格対策本、TOEICを含めた問題集や就職活動本は購入対象外としてきた。分館図書室等では本館と異なる選書方針で購入してきたため、これらの図書を電子ブックとして所蔵しており、それらがよく利用されたという結果となっている。本稿は電子ブック整備のための判断材料として分析を行ったが、その結果を受け、選書方針の見直しも検討に入れるべきであろう。ただし、図書館の予算には限りがあるため、利用が多いからといって、利用者自身が購入すべきものを購入すると、本来図書館が整備すべき資料が購入できなくなる。図書館の在り方や他館との調整も含めての検討が必要となるだろう。

電子ブックの整備にあたっては本稿で試みたアクセス分析に加え、各プラットフォームで提供する試読を利用したい。利用者が利用したい本を(時間制限はあるものの)自由に閲覧でき、アクセス上限の補完にもなり、最新の利用ニーズが得られる。今後、予算を鑑みつつ、最も有効に利用できる時期を見極めて定期的に試読を実施するのが望ましい。

一方で、使いたい本がなく電子ブックを使えないという層もいるため、電子化リクエストなどの働きかけを行いたい。また利便性向上のためプラットフォームの改善を要望していきたい。

#### 6. 関連文献

- 1) 児玉芽生ほか「COVID-19パンデミック下の大学図書館における電子書籍の利用状況」『大学図書館研究』119, 2021, <https://doi.org/10.20722/jcul.2123>
- 2) 渡部和雄「電子書籍利用の要因抽出とモデル化による利用促進への示唆」『日本経営工学会論文誌』66(1), 2015, p. 1-11, <https://doi.org/10.11221/jima.66.1>

こばやし まりえ, 附属図書館情報管理課受入係主任

41 2022年10月3日時点ではView Countsがリリースされていないためこの投稿のインプレッション数は不明。

42 E-Catsの図書館サービス統計では所属レベルの情報が保持されておらず、電子ブックと図書の切り分けができない。